



キャンドルナイト@洋光台

## 活動を始めたきっかけ

♡まち洋光台は、洋光台のまちを愛する住民・団体が連携し、**多世代がともに楽しめるイベント**を実施することで、**人と人をつなげ、ともに笑顔で喜ばせるまちづくり**を目指して、平成26年度から活動を開始しました。

## 活動内容

## 構成員

洋光台一丁目町内会、洋光台四街区自治会、洋光台まちづくり協議会、  
洋光台駅前公園愛護会、洋光台一丁目クラブ、一般社団法人 re net 結

## 主な活動

## ●キャンドルナイト@洋光台

牛乳パックを自由に切り抜き作成したキャンドルホルダーの中に、キャンドルを入れ、優しい灯りで洋光台駅前公園や地域を照らす幻想的なイベントです。



## ●きッズマーケット@洋光台

子どもが自由な発想で企画運営するフリーマーケット。  
大人は口出し厳禁、サポートに徹することで、子どもの自主性を育みます。

## ●お湯カフェ

子どもから大人までが集う「居場所」としてのカフェを開き、人と人とのつながりを作ります。

## ●各種講座・相談会

●手作りクラフト教室 ●大人のための携帯電話教室 ●キャンドルホルダーづくり など

## 活動の様子

## ●キャンドルナイト@洋光台

半年前から実行委員会を中心に、地域の人や学生ボランティアと協力しながら、約2,000個のキャンドルを準備しました。キャンドルホルダーは使用済みの牛乳パックを再利用して作成。窓をつくったり、屋根をつけたり、オリジナルの「おうちキャンドル」は公園を街に見立て配置しました。普段は子どもたちの声であふれる洋光台駅前公園も、キャンドルの灯りでとても幻想的でした。

## ●きッズマーケット

子どもたちがレジャーシート1枚のお店を開店。何を売るか、お店の名前は何か、アルバイトには何をしてもらうか、出店料を払っていくら売ったら儲かるか、両替はいくら用意するか、子どもたちが考えて運営しています。お客さんとして参加した子どもたちも、遊んだり、アルバイトをして報酬をもらい買い物をしたり、小さな社会体験の場になっていました。店舗は26を数え、子どもたちが考えた多種多様なお店が並び、会場はとてにぎやかでした。店長さんの中には「来年は実行委員になりたい!」という子もいました。



設営の様子



キャンドルホルダーづくり

## キャンドルナイト

実行委員会の子どもたちが  
老人会のおじいちゃん、  
おばあちゃんと  
キャンドルホルダーを  
作りながら、お互いの作品を  
「すごいな」と褒め合って、



お互いに尊敬し合える間柄になっている。

同じことで喜ぶことが  
すばらしいな、と思います。



## 多世代交流の手応えを実感

## きッズマーケット

5月に開催したきッズマーケットの実行委員会のメンバーは、主に小学生から大学生。そして、サポートに大人を加えて組織されています。お店の配置、銀行や納税などのルールづくり、アルバイト内容の検討、店長説明会など、大人は口出しせず、子どもを中心に、子どもたちのアイデアで決めています。

**きッズマーケットで子どもたちが自主的に行動できる環境**が作られ、それが、キャンドルナイトにも生きていていると感じています。



## うれしかったこと!

26年度のキャンドルナイト参加者はおよそ2,000人、27年度はおよそ4,300人でした。昨年は事務所スペースから遠くまで見渡せましたが、今年は人垣で向うが見えず、音楽も聞こえない状態!

急激な参加者の増加は、作ってくれた子どもたちのご家族が見に来てくれたからかなあ? または昨年「キャンドルナイトがよかったよ」と聞いた人が来てくれたからかなあ、と想像しています(笑)。